



試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」 No.8

よいよい人間関係を築きあげるために

校長 中野 主税

人には、「いき」のいい人がいます。その人と話をしていると、自然とエネルギーをもらえるような気がします。このことに関して、次のような話があります。

イワナは、いつも水の澄んでいる場所で、一匹で静かに暮らしています。自分は、他の魚とは違うのだというように、水が濁っている場所に行ってみることも、他の魚と仲良く話してみることも、全く興味がありませんでした。

あるとき、サケの大群が産卵のために、その川を激しい音を立てて上がってきました。もちろん、急な流れに逆らって上がってきました。

最初のサケは、「やあ、イワナさん。」と、次のサケは、「しばらく一緒によろしく。」などと、どのサケも気軽に、元気よく声をかけてきました。イワナは、「あっ、ああ、よろしく。」と、戸惑いながら応えました。

何日か過ぎて、イワナは一念発起して、自分も下流へ行って、そこから今いる場所まで川を上がって行ってみようとして行動に移しました。ところが、下流に行ってはみたものの、思ったより流れは急で、とてもサケのように上手に上がっていくことはできません。しかも、日頃、友達とつきあいがなかったため、どの魚も、イワナには声をかけてくれません。

イワナは、何とか元の場所に戻ってきましたが、いろいろな魚との交流がなかった今までの自分の生活を反省したのでした。



【試すっ子遊びの様子】

小学校生活の中で、子供たちがチャレンジ精神をもって多くの仲間と関わりながらコミュニケーション能力を高めていくことは、これからの多様な社会を生き抜いていくために大切なことであると考えています。

そのために、これからも学校行事を始めとする様々な教育活動の中で「試す人、チャレンジする人になろう」と声を掛けながら、子供たちを育てていきたいと思っています。

この話は、「いき」のいい人というのは、常に新しいことに興味をもち、決まりきった場所にとどまろうとせず、時には流れに逆らって行動して、他の人にも積極的にかかわっていきこうとする前向きな気持ちをもった人だということです。

子供の周りにはいる、私たち大人が、そのような姿を子供に見せていく必要があるのではないのでしょうか。

人間関係というのは、前向きにかかわっていくという生き方の中で、自然に成立していくように思われます。